

TODA 産業レポート 2022年7月戸田市景気動向調査

調査概要

- 実施期間 2022年7月7日(木)～7月25日(月)
- 調査対象 市内事業者700社
- 調査方法 WEB調査 (対象者にアンケート回答用のQRコードが記載された文書を郵送し、WEBで回答)
- 回答状況 有効回答数 244社 回答率 34.9%

天気マークと指標				
▲100～▲50	▲50～▲20	▲20～20	20～50	50～100

調査結果のまとめ

戸田市内企業の景況感について

全体	天気		景況感DI	概要 市内外中小企業の景況感は、前期に比べ減退傾向が見られ、見通しについても、厳しい状況である。 前回から1.61ポイント減少している。見通しについては4.12ポイント減少と悪化傾向が見られる。
	前期		33.78	
	現状		35.39	
	先行き		39.51	

前期:R3.10～3月、現状:R4.4～9月、先行き:R4.10～3月

分析についてはDI(景気動向指数:Diffusion Index)を使用

全体について

「原材料・仕入価格」については、前回から11.49ポイント増加と大幅に上昇しており、見通しについても、さらに2.14ポイント増加の72.96と高い水準となっている。特に飲食業、製造業の数値は非常に高く、厳しい状況と言える。
また、「製品(商品)価格DI」は22.61であり、前期から15.57ポイント増加していることから、円安や原油高騰の影響により、原材料・仕入価格が上昇している状況が拡大し、製品(商品)価格についても、一部では、やむを得ず値上げせざるを得ない事業者も出てきたことがうかがえる。
特別調査としてDXについての取り組み状況を尋ねたところ、「取り組んでいる」、「取り組む予定」が約1/4を占め、「興味がある」を含めると約半数の事業所がDXに関心がある。

業種別

業種	天気	景況感DI	概要	
建設業	前期		32.14	景況感については改善傾向が見られる。 他業種と比較するとマイナスの度合いは低めである。 原材料・仕入価格DIについては高い水準にある。 雇用人員DIは現状 33.33、見通しでは 35.48となっており、人員不足と回答した事業者が一定数いる。 DXへの取組状況についての項目では、「取り組む予定はない」の回答が約1/2で、他の業種に比べ高かった。
	現状		22.58	
	先行き		16.13	
製造業	前期		25.00	景況感は前回の調査時と比較して27.27ポイントと大幅に悪化している。ただし中には少数だが良いと回答している事業所もある。 原材料・仕入価格DIについては95.45と他の業種に比べ非常に高かった。(飲食業に次ぐ高さ)
	現状		52.27	
	先行き		52.27	
卸売業/小売業	前期		38.24	卸売業では景況感を良いと回答した事業所はなかったのに対し、小売業では一部の事業者では景況感、売上高、経常利益について良いと回答した事業所が見られ、分かれている。 原材料・仕入価格DIも前期 25から今期は87.5ポイント上昇の62.5であり、やむを得ず値上げしなければならなかった状況がうかがえる。 卸売業では仕入価格の見通しは66.67であったのに対し、小売業では80.77と差があった。仕入価格高騰が長引いていることで、川下に影響が移っていることが考えられる。
	現状		40.91	
	先行き		56.82	
飲食業	前期		50.00	景況感は全業種の中でも特に低く、厳しい状況である。 原材料・仕入価格DIについては前回からこの半年で62.5ポイントと大幅に増加し100となり、厳しい状況である。 商品価格DIも前期 25から今期は87.5ポイント上昇の62.5であり、やむを得ず値上げしなければならなかった状況がうかがえる。 資金繰りDIの先行きについては、全体では 26.25であるのに対し、50と他の業種と比較しても厳しい見通しである。
	現状		75.00	
	先行き		87.50	
不動産業	前期		24.00	本市では不動産業(管理・賃貸業)が全産業の構造に占める割合が県平均が約6%であるのに対し、約15%と高いという特色があり、本調査でも不動産業は全回答の11.9%を占めている。(Reasas 経済センサス2016) 景況感は前期 24、今期 31.03、先行き 37.93と悪化傾向である。 事業承継については、「後継者(親族)がいる」の回答が一番多く、他業種で30%前後であったのに対し、親族への継承が75%と高い割合を占めている。次いで「分からない」、「後継者はいない」との順であった。
	現状		31.03	
	先行き		37.93	
サービス業	前期		25.53	景況感は前期 25.53、今期 31.82、先行き 38.64と悪化傾向である。若干ではあるが良いと回答した事業所が見られ、分かれている。 DXへの取組状況についての項目では、「すでに取り組んでいる」、「これから取り組む予定」「興味あり」の回答を合わせると57.8%と他業種と比べ高かった。
	現状		31.82	
	先行き		38.64	
運輸・通信業	前期		52.50	景況感については前期 52.5、今期 41.67、先行き 33.33と改善傾向が見られる。 原材料・仕入価格DIでは、前期54.29から9.35ポイント上昇の63.64となり、先行きについては横ばいである。 入札時に地元の業者優先を要望する意見や補助金を要望する意見があった。
	現状		41.67	
	先行き		33.33	
その他	前期		48.15	景況感については前期 48.15、今期 12.9、先行き 12.9と全業種の中で一番高く改善傾向が見られた。 売上高、経常利益についても改善傾向が見られ、全業種の中で一番高かった。 製造業以外の分野への補助金の対象拡大を要望する意見があった。
	現状		12.90	
	先行き		12.90	